がんばろう
南三陸町
復興第 48 号

南三陸マイタウン月刊情報

発行所
千葉総合印刷株式会社
本吉郡南三陸町志津川字沼田 150-84
TEL(46) 3069 FAX(46)3068
志津川広報センター
企画・編集　千葉伸孝

JR 大船渡線・気仙沼線全線の早期復旧を実現する集い

200 名もの地域民が集まった

２月 28 日の午後２時から「JR 大船渡線・気仙沼線全線の鉄路での復旧を早期に実現する南三陸の会集い」が、南三陸プラザを会場に開催された。会場には 200 名を超える気仙沼沿線・南三陸町の住民が集まった。

初めに「設立準備会」の会長の小野寺寛氏（歌津）が、挨拶と経過報告をした。その後で、先進事例（女川町）と通学体験発表（高校生と親）があった。設立総会では後藤一磨氏を議長に 3 つの議案について協議に入り、会則の制定・役員選出・事業計画が審議され、会長に小野寺寛氏を選出した。

小野寺会長

鉄路復旧を早期実現する為に、署名簿も配られ 28 年 4 月 30 日での期間、署名活動が参加住民により行われる。

後輩の為に気仙沼線の復活を！

気仙沼の高校に通う高校生は、震災前は１時間で通学できていたものが、現在の BRT だと１時間 30 分を要している。朝の課外授業に間に合うように行くために、本吉駅まで送ってもらっている。「母子家庭の私は母に無理を言っていて、今の状況を作っている。」と涙ながらに話す。夜遅くまで仕事をし、介護して家事をしている。こんな母には感謝してもしきれない。（仙台までは鉄路だと１時間 30 分～２時間で、車を持っていない家庭もある。）高校生の勉強の為にも鉄路は必要で、今後の仙台へ通学する生徒に可能性を作って貰いたいと話した。
（南三陸町の高校生）

高校生の通学時間の苦痛！

BRT での通学は、登米市の柳津からで、歌津地区に来る頃にはバスは満杯となり、気仙沼市内の高校に通っている生徒は、通学が苦痛でたまらないと言う。立っての通学は停車するたびに人が乗って来て、前に詰められ、いちいちバスから降りる事もあると言う。こないだの雪の日は３時間以上も掛かった。親としては「不安と心配でいっぱいだ。」お年寄りも大変と思うし、電車の時はこんな事は無かったと言う。
（歌津から通学する親から）

ご老人や妊婦さんは BRT では大変！

三人家族の私は、戸倉～志津川迄の通学をしている。祖母は病院に行くと疲れると言い、急ブレーキなどで具合が悪くなる。（病院に行ったのに具合が悪いと言う）。BRT だと体調を崩し勉強も出来ないとも話す。妊婦さんや高齢者・子供達の大変さを考えると絶対に鉄路は必要だ。安定した通勤通学には電車しかない。
（戸倉の高校生）

「三陸の会　役員名簿」

＊会長　小野寺寛　＊副会長　後藤一磨
＊幹事　渡辺啓・菅原衛昭・大滝りう子・鈴木千枝子・　内海明美＊事務局　伊藤俊
＊会計　及川幸子　＊監事　小野寺久幸・酒井禅悦　＊顧問　川村巌（三陸ふるさと連合会会長）・田畑英伍（在仙志津川会会長）・山内十三喜（在仙歌津会会長）・阿部隆二郎（㈱阿部長商店南三陸ホテル観洋　代表取締役副社長）

「署名趣旨（抜粋）から」

私たちは安全性・定時制が高く大量輸送可能な鉄路の復旧を求めます。

被災直後から岩手県沿線市・町民の会や気仙沼を中心とする実現の会が設立され、鉄路での復旧実現署名活動に取り組み、42 万人（気仙沼・本吉地方 36589 人）の署名を得て、2012 年７月に国交大臣や JR 東日本に提出し、「鉄路復旧」の回答を得た。

昨年 12 月の沿岸首長会議では、気仙沼市を除く市・町が BRT 本格復旧の受け入れを表明した。短期的に見れば日常の利便性が高いのが有利に思えるが、長期的にはインバウンドを含む観光客誘致による交流人口の増加や産業振興に鉄路が必要です。
南三陸町は明治 29 年三陸大津波・昭和 35 年チリ地震津波と三度に渡る復旧・復興を遂げ、80 年の歳月の先人達の偉業の元にある。
加速する人口減少の歯止めを掛け、沿線の世界に誇れる歴史や自然・文化・伝統を広く伝える為にも、鉄路の復旧が必要である。宮城から岩手・青森の沿線の志を一つにし運動に加わる。平成 28 年２月 28 日に会を立ち上げ、JR 大船渡線・気仙沼線全線を鉄路で復旧する運動を展開する。
鉄路復旧を早期に実現する南三陸の会

議会と住民の懇談会（27 年 11 月）〔傍聴記２〕

町民の付託に応える南三陸町議会を作り上げるために、町民と議会が一体となった議会の改革や活性化を進める為に、「議会と住民との懇談会」を開催した。　（47 号より続く）

志津川地区の仮設から

- 商店街・河川・堤防の整備より、住民の土地整備を先行できないのか。
- 中学校の仮設は今後どうなるのか。
- 登米市の災害公営住宅は完成している。南三陸町でもスピードを上げて欲しい。
- 大手の企業誘致は進んでいるのか。
- 南三陸町に希望の合った仕事がない。
- 新築した住宅への生活・入浴時の「手すり」などの設置は補助はあるのか。
- 体が不自由なので生活ができない。
- 原発の再稼働を議員の方はどう考えているのか。
- 南三陸町の人口を減少させないで欲しい。
- 新井田川には橋が一本しかなく、旧本浜市場の作業所や、カキ剥き場に行くのに不便だ。

数々の質問に議員団は、住民に親切・丁寧に答えていた。しかし、個人的な考えでなく議会としての答弁とした。

歌津地区の仮設からの移転

議会と住民の懇談会が町内の９ヶ所で、７・９・10 日と開催された。歌津吉野沢仮設でも 16 人の住民から、多くの要望・意見が相次いだ。「すでに仮設から退去でエアコンを持って出ている。集約としての吉野沢は、エアコンは今後持っては行けないと町当局から言われている。」との質問に、議会側からは「状況を確認し、町としての統一見解を出してもらうようお願いする」、と述べられた。

志津川高校卒業式

取材カメラの多さに
卒業生の緊張が伝わってくる

平成 27 年度卒業式が小雪舞う中で開催された。情報ビジネス科 26 名と、普通科 83 名が志津川高校の学び舎から巣立った。

山内松吾校長の式辞では、４年前の大震災から、世界で一番災害に強い町「防災都市」を目指す。しかし、地方の若者離れが深刻なものとなっている。町では支援をして行くと言う、取り組みは他の高校にはできないと話した。
町はこれから、自然と融合した生業の町をつくる。何があっても生きようとする強靭な力が備わっている。「人間愛」を優先する。皆さんの愛する南三陸町、登校坂の記念碑に「生きて共にいき学ぶ事の大切を知る。」と語った。

山内校長の想いを
込めた証書授与

祝辞では佐藤町長が、挨拶の初めに「決してあきらめない！」の言葉を送った。壊滅的な町の被害に対し全国からの支援があった。「感謝の気持ちを再確認した事と思う。」と話した。これからは、多くの人達を助けられる人間になって、限りない夢と可能性を抱いて行って欲しい。「南三陸町は皆さんの「ふるさと」で在り続けます。」と結んだ。

送辞では在校生を代表し、大坂さんが立ち、先輩たちは常に私たちの目標だったと話し、見えない所で沢山の努力をし、そんな先輩達が誇りだった。「苦労と言う根は、どんな事も打ち砕く！」と卒業のはなむけとした。

答辞では卒業生を代表し、阿部一樹君が三年間の思い出を振り返った。「この体育館から志高の生活が始まった」と言い、先輩たちの背中は大きかったが、多くを分かち合う事ができた。修学旅行や部活では時間が立つのが早く充実していた、と語った。兵庫県西宮高校との交流は、震災から５年が経っても温かい心を持っていてくれていると知った。全国の方や先生・友人に助けられ、両親がどんな時にも支え包んでくれた。109 人の同級生とここまで来た事を誇りに思う、と語った。

サプライズが卒業式終了後にあった。NHK の「明日へのコンサート」の収録が、高校の卒業式だった。卒業生の一人が「キロロの歌を聞きたい」と、メールを送った事が実現となった。
キロロは「前を向いて過ごしてきて、新しい未来を築く日が来た。」と卒業生に話し、デビューヒット曲の「ベストフレンド」を歌い、次に「みんな貴方を愛してる」の新しい曲を、会場全員で歌った。「周りを愛して自分を愛して」の言葉を、お守りにして下さいと歌の後でメッセージを送った。最後に「未来へ」の歌の最初の歌詞に「母がくれた沢山の優しさ」「ほーおら足元を見てごらんこれが貴方の進む道・・・」の歌の歌詞に、目頭を押さえる卒業生の姿があった。

キロロの２人から
歌のプレゼント！

未来への教訓

復興！　大津波の記憶を風化させない

平成27年（2015年）
～ 地元報道より ～

11月の出来事

南三陸町

◇秋の叙勲で本吉・気仙沼地区からは５氏が受賞した。南三陸町からは歌津吉野沢の小野忠一郎氏（78才）が消防功労の「瑞宝単光章」に輝いた。石泉地区で畳店と農家を営み、21 歳のときに歌津村消防団に入団し、平成 12 年に歌津町消防分団長となった。42 年間地区の防火防災活動に尽力した。

◇１日「南三陸産業フェア」が開催され、南三陸町の農水産品などを PR した。今年は合併 10 年記念として多彩な催し物でにぎわった。地元のとれたてのホタテ焼きが１個 200 円や、蒸しカキを３個入り 300 円で販売され、南三陸の海産の名物の味わいを提供し、復興への実感を共に味わった。

◇県文化の日の表彰に気仙沼・本吉地区で８氏が栄誉に輝く。南三陸町からは、入谷地区の高橋貞喜氏（65 才）で、高貞菓子店のかたわら、40 年間にわたり消防団員として地域に力を注いだ。震災では全国からの緊急援助隊の町内の受け入れ調整に尽力した。

◇３日南三陸町の合併 10 周年記念式典がベイサイドアリーナで開催され町民など関係者 300 人が出席した。佐藤町長は「創造的復興へ」の挑戦の誓いを新たにした。

◇南三陸町の委託を受けた環境関連会社のアミタ（本社東京）のバイオガス施設を、４日パラオ共和国のコロール州のヨシカカ・アダチ州知事ら５人が、先進地視察に来町した。人口規模や主要産業も観光と「エコタウン友好都市」の締結も提案された。

東日本大震災で被災した「志津川魚市場」の復旧工事が順調に進んでいる。新設される市場は衛生面に徹底した配慮をし、車両の進入禁止となる。床面積は6435㎡で、荷捌き棟・製氷機械室・排水機械室の３棟で構成する。昨年度の金額は約 20 億８千万円となり、震災前の水準まで回復し、今後はサケとタコの水揚げ増加を目指す。

◇８日南三陸町で「総合防災訓練」が開催され、名足災害公営住宅などの出火も想定し、バケツリレーなどが実施された。万一の複合災害も対応や備えとして、町民・陸上自衛隊・消防署などが参加し防災訓練をおこなった。

◇南三陸警察署でオクトパス君をモチーフにしたキャラクターを作成した。名前は「オクトポリス君」で、今後は交通安全で開運グッズを配布する。

◇南三陸町で初心者パソコン講習が、気仙沼サポートセンター主催で 11 月 18 日に、総合体育館で開催された。

◇「復興グルメ Ｆ１大会」が 15 日ベイサイドアリーナで開催された。被災三県での出店ながら今回で 11 回目を迎える。

南三陸町の養殖カキの国内初の国際認証「ASC」の取得のため、戸倉地区の養殖施設で公開審査がおこなわれた。ASC は民間の国際認証機関で、水産養殖管理協議会（ 本部オランダ ）が、持続可能な栽培に取り組む養殖業を認証する。審査は、国内の認証審査会社「アミタ（ 東京 ）」が実施し、東海大の秋山教授、気仙沼水産試験場の山内主任検査員や審査員が、養殖いかだや処理施設、漁業者からの聞き取りをした。海外の国際会議などでの料理は、認証水産物が優先的に使われる。2020 年の東京オリンピックなど、カキの国際認証による販路拡大や、海外も視野に南三陸産カキをアピールしていく。まずは、戸倉地区の養殖カキを首都圏へとの取り組みを強化していく。

◇南三陸町の志津川地区の高台の住宅再建進む。病院・役場エリアの東工区では 15 戸を整備し、６月末に地区内第一号として土地の引き渡しが行われ、現在、住宅の着工が相次いでいる。

◇志津川深田の菅原倉鳳（そうほう）＝本名・弘人さん（34）が、日展で県内から２人の入選の内の一人に入った。22 歳で師範となり、税理士事務所で勤務しながら、志津川の実家で週末は書道教室を開いている。

◇志津川市街地の災害公営住宅で、集合住宅の東(11戸)･中央(２戸)･西(７戸)と、一戸建て中央(１戸)・西(１戸)の合計 32 戸を再募集する。

◇宮城県は南三陸町の防災対策庁舎を、20 年間の 43 年まで、「県有化」の保存に向けて安全対策の検討のため、来月にも現地調査に入る。

◇志津川地区に街路灯 20 灯が寄贈された。東北電力気仙沼営業所とユアテック気仙沼営業所が、「安心安全なまちづくり」にと、志津川黒崎の 45 号と戸倉 398 号に設置される。

◇志津川高校の郷土芸能愛好会は、「水戸辺獅子踊」を県大会で披露し、最優秀賞を受賞した。来年７月の県大会へは、３年生が卒業し１・２年生の体制で挑戦する。

◇南三陸町社会福祉協議会では、志津川地区の災害公営住宅内に、デイサービスなどを行う「福祉モール」・「カフェ」などを設け、高齢者世帯の入居希望が多い団地に、安心安全な住環境づくりを目指す。

◇南三陸町は河川に遡上するサケが激減している事から、20 日から町内の定置網漁業者による網揚げを実施した。親魚確保にサケ孵化事業の関係者は期待している。

◇気仙沼線の復旧問題は、南三陸町と登米市が BRT での本格的な復旧を容認する方針だが、気仙沼市と JR 東日本の協議が難航し年を越えそうだ。気仙沼市は BRT の振興策が条件として求めている。

◇南三陸町は、公民館と図書館を併設した「生涯学習センター」を、志津川地区の中央区への建設を、町議会に示した。３階建てで、講演会・軽スポーツ・音楽発表会などが可能で、200 人規模の多目的ホールを設ける。29 年前半の着工を予定し、30 年 12 月に供用を開始する。

◇第三次安倍改造内閣で、復興大臣となった高木大臣が、初の気仙沼・本吉地方入りをし、復興の状況を視察した。南三陸町には 24 日訪れ、「復興は道半ば、これからも町に寄り添って支援していきたい。」と語った。

◇南三陸病院と総合ケアセンターの落成式が 25 日に、現地の志津川沼田に関係者 150 人が出席し、式典が開催された。新たな医療拠点として 12 月 14 日に開業を迎える。

◇南三陸町の志津川郵便局において、年末年始の繁忙期を前に、強盗事件を想定し、万が一に備え訓練をおこなった。

◇今月の南三陸町「志津川福興市」は、29 日に「鮭・イクラまつり」を実施する。震災後から開催を続ける「福興市」は今回で 51 回目を迎える。

◇南三陸署で結成された「よりそい隊」は、高齢者への「振り込め詐欺」の被害防止を、仮設集会所などを利用し、寸劇・腹話術で犯罪から高齢者を守っている。親しみやすい「よりそい隊」の活動が好評を得ている。

県漁協歌津支所青年部が、ウニの蓄養に取り組んでいる。磯焼けの原因の海藻を食べるウニを駆除し、沖合に設置した「かご」で育てる。えさはノルウェーで開発された人口飼料を使用する。身入りも効果が確認され、一年通した生産を視野に蓄養で売れるウニに期待されている。

◇南三陸町の「震災復興祈念公園」の開園目標を 29 年度とし、12 月 20 日午後 10 時 30 分からベイサイドアリーナで説明会が開催された。

◇震災後復旧のほ場整備地区で気仙沼・本吉地方の JA 南三陸のネギ栽培が今年から始まり、ブランド・特産化「ネギ」として大谷地区で収穫がスタートし、生産者は新しい特産品ネギに期待を膨らませる。

◇南三陸町総合計画審査会（会長 佐々木憲雄県漁協志津川支所運営委員長）は、27 日町から諮問されていた来年度からの第２次総合計画を諮問通り答申した。これで南三陸町の向こう 10 年の総合計画により移住・定住などを柱に、復興後の将来象を定めた。

南三陸町歌津地区に東日本大震災から都内のボランティア団体が主催する、応援ツアーが今月で 100 回目を迎えた。主に泊浜地区を中心に、復旧・復興支援を続けてきた。その記念として「手作りの感謝状」を、受け入れに協力してきた平成の森仮設の渡辺正行さんが、津田代表（横浜市）に贈った。

南三陸町と気仙沼市の復興の進捗と問題を比較して見れます。

気仙沼市

◆UR 都市機構気仙沼復興支援事務所の「復興まちづくり事業者エントリー制度」が実施されている。鹿折・南気仙沼地区の地権者との土地利用マッチングに苦戦している。これまで２地区で成立が３件のみと、将来不透明や用地点在がその理由としてあげられる。

◆気仙沼コールセンター分が 2936 万円の不適正支出と、６日厚生労働省の緊急雇用創生事業を受託した DIO ジャパン関連子会社の、不適正支出を発表した。全国では４億円にのぼる。気仙沼市からは事業受託した 24・25 年があり、昨年度は 3300 万円を概算払いしており実質差し引き 2300 万円となり、合計で 5200 万円の返還を求めている。DIO は破産しており、返還は見込めなく、事業の基金を造成した県に財政支援を要望している。

◆気仙沼市の小泉川のサケ漁は９日まで 666 匹ながら、親魚が少なく前年同期の６分の１で、震災で放流数の減少の影響が出ていて「採卵」が厳しいシーズンとなっている。

◆気仙沼市で気仙沼線・大船渡線の「復旧を求める住民集会」が８日中央公民館で開催され、約 120 人が集まった。BRT（バス高速輸送システム）の復旧方針について、鉄路を諦める事なく、一丸となり取り組んで行く事を誓った。

◆気仙沼市の湾内区画整備事業で、宅地引き渡しに最長２年遅れ（30 年度）となり、町づくりへの影響が懸念される。市全域で災害公営住宅 160 戸、防災集団移転でも 54 区画の追加募集をする。（平成 27 年 11 月）

◆気仙沼市の防潮堤建設は L1 対応で 107 カ所、原形復旧工事は現在の所９カ所しか完成していない。

◆気仙沼市の震災がれき処理場の一次分が５年目でようやく処理が終わった。がれきは 198 トンで、処理総額は 1117 億円がかかり、がれき処理場は今後農地として復旧される。

◆気仙沼市は昨年の人事院勧告により、職員給与や特別職（市長）などが引き上げとなる。

◆気仙沼市の緊急雇用は 28 年度で終了となる。気仙沼市の臨時職員など 54 事業、236 人を 27 年度に雇用し、予算は当初より６割削減され４億３千 900 万円だった。緊急雇用は 23 年度から 10 ～ 13 億円を予算化してきた。

◆気仙沼西高校は、県主催の「高校生弁当コンクール」で、４年連続で県知事賞に輝いた。気仙沼の食材をふんだんに使った、「幸せもどるほつこりふるさと弁当」の優秀賞１点など、年度内にコンビニで商品化される。

気仙沼市の市町村合併による、普通交付税の特別処置「合併算定替え」の終了となり、段階的な減額が始まった。当初は年間 12 ～ 13 億が減る想定が、４～５億の減額で済みそうだ。普通交付金が 23 年度は 99 億円に対し、33 年度は 82 億円まで落ち込む。今後進む人口減少による大幅な落ち込みを踏まえ、財政規模に見合った市制運営が求められる。

◆気仙沼港の「生鮮カツオ」の水揚げが９年連続で、「日本一」を達成した。水揚げは２万 2600 トンで、２位の千葉勝浦に６千トンの差をつけた。